

幸せの4つの条件

美しいものに感動できる

「豊かな感性を育むまちづくり」

歴史文化



美しいものに感動できる 「豊かな感性を育むまちづくり」

恵まれた自然環境や歴史、文化を守るとともに人々の豊かな情操を育み、さまざまな文化活動を支援する都市を目指します。

熊本城

本市は豊かな歴史・文化に恵まれ、国・県・市の指定文化財が189件もあります。中でも、歴史都市くまもとの象徴となっているのが熊本城です。

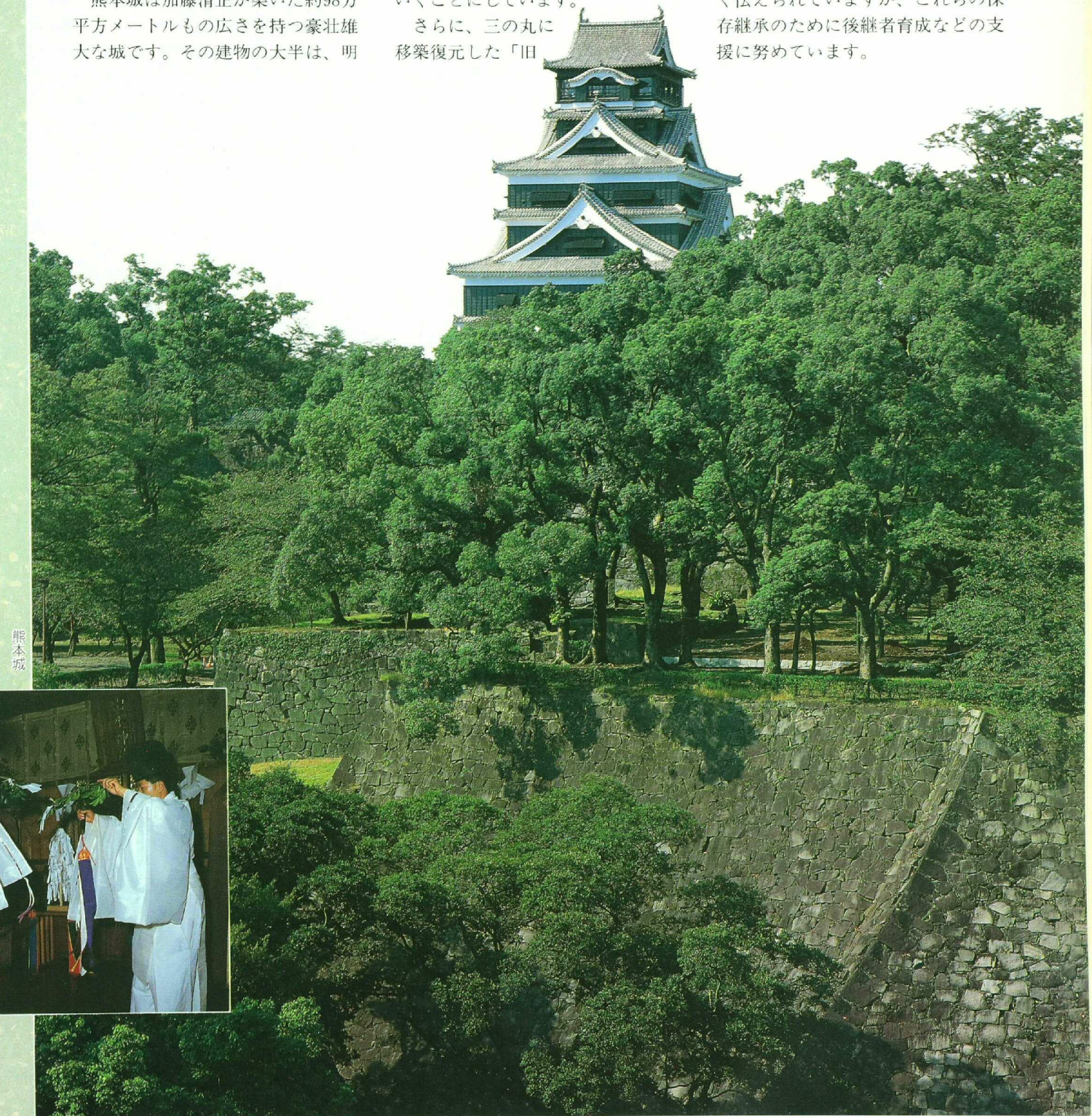
熊本城は加藤清正が築いた約98万平方メートルもの広さを持つ豪壮雄大な城です。その建物の大半は、明

治10年の国内最後の内戦である西南の役の際、薩摩軍総攻撃の直前に火災で焼失してしまいました。市では史跡の保全や復元に努めてきており、今後も旧来の堂々とした姿に戻していくことにしています。

さらに、三の丸に移築復元した「旧

細川刑部邸」（県指定重要文化財）を、平成6年から一般公開し、当時をしのばせる場所としています。

また、本市には多くの伝統芸能や伝統技術、地域のまつりなどが数多く伝えられていますが、これらの保存継承のために後継者育成などの支援に努めています。



熊本城



肥後神楽（出水神社）

美しいものに感動できる

「豊かな感性を育むまちづくり」

史跡・文化財



夏目漱石内坪井旧居

の一種)の建物跡や、規則的に並ぶ不思議な石積みが発見されました。

また、熊本は時代の大きなうねりの中で、多くの偉大な先哲が活躍してきた地でもあります。市では現在、平成7年5月に解体復元を終え開館した小泉八雲熊本旧居を始めとして、徳富記念館と旧邸(蘇峰・蘆花)、横井小楠記念館と四時軒、熊本洋学校教師館(ジェーンズ邸)、リデル・ライト両女史記念館、そして御馬下の角小屋を記念館として一般公開しており、自主企画展の実施など、今後も内容を一層充実していきます。また、寄贈を受けた後藤是山(熊本市名誉市民)邸の整備と資料館を建設し平成8年5月

から公開いたします。さらに、平成8年は夏目漱石来熊100年を迎え、夏目漱石内坪井旧居(記念館)の補修を行い、展示内容も一層の充実を図ります。

このほかふるさとを築いてきた数多くの先哲についても、その顕彰に努めていくことにしています。

*せん(埴、磚、甃)

東洋建築用材の一。煉瓦・タイルに類し、土を焼いて方形または長方形の平板としたもの。周代に始まり、漢代に発達し、その後、各時代に用いられた。わが国では奈良時代に造られ、時に鳳凰・天人・唐草文様などを浮彫してある。敷瓦・壁体化粧材・天井構材などに使用。

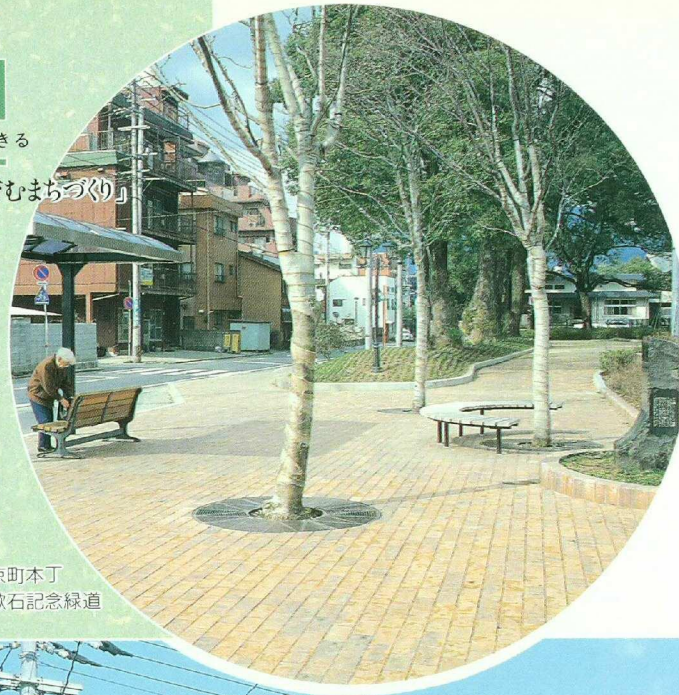


細川家墓所(妙解寺霊廟と門)

美しいものに感動できる

「豊かな感性を育むまちづくり」

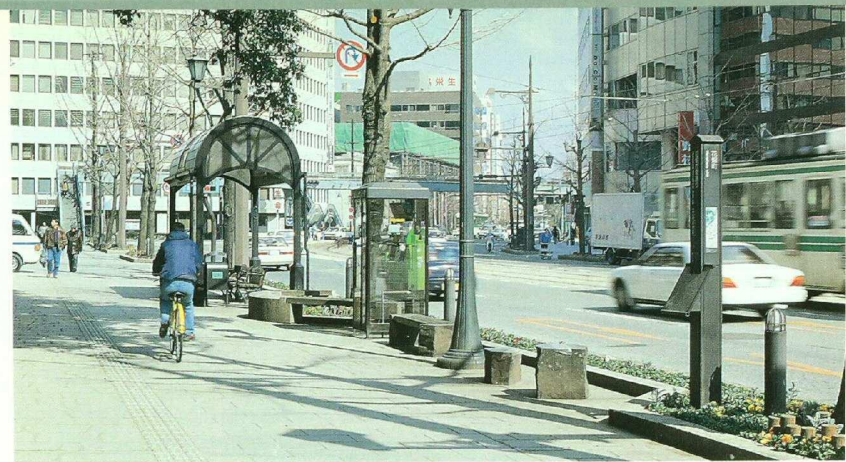
都市景観



京町本丁
漱石記念緑道



歴史的雰囲気に残る川尻の町並み



シンボルロード

本市では歴史や自然と調和した個性豊かな都市景観の形成を図るため、さまざまな事業施策に取り組んでいます。

公共空間については、シンボルロ

ード事業や辛島公園リフレッシュ事業など本市の顔となる通りや広場をはじめとして、地域の歴史や文化を生かした景観整備を積極的に行っています。夏目漱石来熊100周年を翌年に控えた平成7年4月には、夏目漱石が五高赴任の際、人力車で通ったといわれる京陵中学校前に小説「草枕」ゆかりの樹木や明治の雰囲気を出した京町本丁漱石記念緑道が完成しました。

平成元年10月には、多くの皆さんの参加協力を得て総合的に都市景観の形成を進めるため、「熊本市都市景観条例」を制定しました。この条例は、市民、事業者、行政の三者がそれぞれの責務に基づいて創意を発揮すること、景観形成のために地区指定等の制度を活用すること、市民のまちづくり活動を支援することを大きな柱としています。平成3年4月からは「大規模建築物等」の届出制度の運用を始め、地域の景観と調和した事業を行っていただくよう指導を進めています。また、平成7年9月には、人々の心象風景として地域の景観を特徴づけている6件の建物を「景観形成建造物等」に指定しました。

今後、都市づくりに関わるさまざまな分野で、熊本らしい個性豊かな都市景観をつくるための取り組みを積極的に進めることにしています。

美しいものに感動できる

「豊かな感性を育むまちづくり」

市民文化

芸術文化

本市は、歴史と伝統と風土を生かしながら、21世紀に向けた多様で個性的で魅力のある芸術文化の創造をめざしています。“新しい文化は人と人との交流のなかから生まれる”を基本理念に、たくさんの人たちとのネットワークを大切に、文化事業の展開を図っています。



市民美術展

特に平成8年秋に『熊本県民文化祭』や『96くまもと漱石博』を市民、県民の皆さんとご一緒に開催します。熊本文化の燃える思いを県内外へ大いにアピールします。このほか、熊本の秋を彩る市民手作りの「熊本市民美術展」の開催、市民会館や総合女性センターなどでの自主企画事業の実施など市民参画型の文化事業に積極的に取り組んでいます。平成7年度からは市庁舎ロビーを利用したミニ音楽コンサートを開催するなど芸術をより身近に鑑賞してもらう試みも始めました。

市民の芸術文化活動の支援育成事業では、文化団体への補助や文化事業の実施に対する助成事業、そして後援名義事業など積極的に行っています。特に、21世紀の文化創造を支える若い人たちを育成し、その活躍を支援するために『人づくり基金』による助成事業を行い、自由な芸術文化活動が活発に行えるよう支援育成基盤の確立を進めています。

また、同時に美術文化活動の大き

な拠点となるよう、市立美術館の建設計画を進めています。これは洋画家で文化功労者の井手宣通画伯の遺作が本市に寄贈されたのをきっかけに始められたものです。郷土の美術家の顕彰と合わせ、熊本の伝統と風土の中で作りあげられた独創的な美術文化を直に世界に発信できる施設をめざしています。今後、熊本市美術文化振興財団と連携をはかりながら積極的に進めていきます。

地域文化

市民会館、産業文化会館、総合女性センターなど既存の施設をさらに充実させるほか、高度な芸術活動や市民の身近な文化活動の拠点となる施設の整備・拡充を進めています。

地域に継承されてきた有形、無形の伝統文化をまちづくりや地域のアイデンティティの形成に生かそうとする自主的活動も積極的に行われています。また、特色を持った地域文化を地域住民自らの手で創り出していけるような、施設の整備なども検討していく予定です。

熊本市市民会館自主文化事業



美しいものに感動できる

「豊かな感性を育むまちづくり」

生活文化

潤いのある快適な生活には芸術文化を核としながら生活文化の充実が

花の休憩所



不可欠です。

近年では、多くの人の価値観が、物の豊かさだけでなく、潤いのある暮らし、心の豊かさを求める方向へと変わりつつあります。人々は、芸術文化に限らず、衣・食・住・遊の日常的な生活の中や、その舞台となる都市空間の中に、個性的で楽しさあふれる生活文化の創造を求めるようになってきました。

週休二日制や労働時間短縮も次第に普及しており、経済的豊かさとの豊かさを合わせ持った、真に豊かさを実感できる社会の実現が望まれるようになってきました。

多様な価値観やライフスタイルの混在する中で、多くの人々が豊かな生活文化を楽しみ、都市魅力の一層の向上につながるよう、民間・行政がそれぞれの役割に応じた取り組みを行っていく必要があります。

本市では、市民のいきいきとしたエネルギーから生まれる多様な生活文化活動を支援し、活発化を図るために、文化団体の活動支援やイベント助成をはじめ、市政だよりや各種広報手段を活用した文化活動情報の提供などに努めます。また、魅力ある公共空間の創出、個性的で楽しさあふれる町づくり、そして生活文化産業の振興など多方面から生活文化の充実に取り組みます。

動植物園

市民のレクリエーションの場として昭和4年（1929年）水前寺にある成趣園東側に動物園を開設しました。周辺の都市化が進み敷地の拡張が困難になり、昭和44年（1969年）江津湖のほとりの現在地に移転しました。

その後平成3年（1991年）4月、都市緑化植物園と一体化して「熊本市動植物園」が誕生し、市民の憩いの場として多くの人々に愛され親しまれています。

約24万㎡の敷地に、139種933点の動物と、500種5万点の植物、さらに大型12種、小型40種の遊戯施設で構成されています。

平成5年（1993年）9月には中国西安動物園から一番（つがい）の金縷猴を長期借用して、日中共同で学術研究に取り組みながら、金縷猴の保護繁殖につとめています。

平成8年（1996年）6月には、飼育管理センターが完成しました。この施設は、動物の健康管理の徹底に役立てると共に、野生動物や種の保存等についての研修研究機能や、野生動物保護センターの機能も備えています。また、子供達が飼育体験やふ化状況の観察もできるようになっています。

今後、市民の憩いの場として、更なる整備をすすめると共に、飼育管理センター、動物資料館、緑の相談所などを核として、楽しく遊びながら学習できる動植物園づくりにつとめます。

学術研究

本市は、文教都市としての伝統、豊かな自然環境、充実した都市機能などを生かし、学術研究の拠点都市として発展すべく力を注いでいます。

具体的には、環境総合研究所の完成を初めとして、都市農業技術センター、水産技術センター等の公的研究施設の建設・整備といった施策などを、積極的に展開しています。

また、学術研究の活発化を図るため、様々な研究機関の交流活動への支援や優れた研究者の招聘などを行っています。

さらに、稀少動物保護の観点から、世界でも珍しい金縷猴の学術共同研究を行っています。

今後も、学会の誘致、シンクタンクの設立など、積極的に推進していきたいと考えています。



雄1頭、雌2頭のマサイキリン

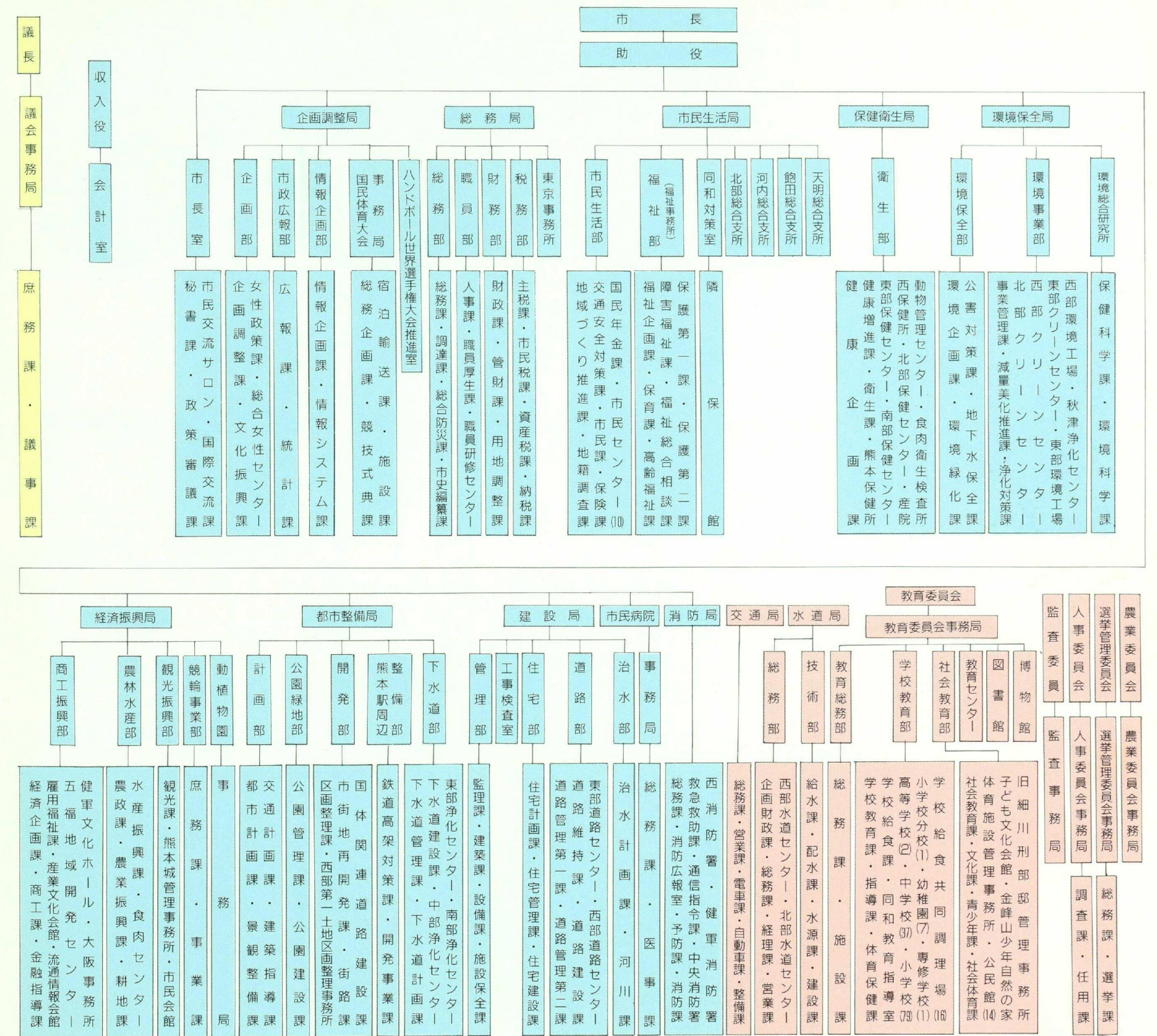
■ 歷代市長

代	氏 名	就任年月日	退任年月日	代	氏 名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉 村 大 八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9	第11代	平 野 龍 起	昭和17. 6. 25	昭和20. 8. 10
2	松 崎 為 己	〃 26. 9. 15	〃 30. 8. 2	12	石 坂 繁	〃 20. 10. 4	〃 21. 3. 11
3	辛 島 格	〃 30. 9. 13	大正 2. 1. 20	13・14	福 田 虎 亀	〃 21. 6. 14	〃 23. 2. 9
4	山 田 珠 一	大正 2. 4. 2	〃 3. 10. 10	15	佐 藤 真佐男	〃 23. 4. 7	〃 27. 3. 7
5	依 田 昌 一	〃 4. 1. 14	〃 6. 9. 3	16	林 田 正 治	〃 27. 3. 20	〃 31. 2. 23
6	佐 柳 藤 太	〃 6. 11. 20	〃 10. 11. 19	17・18	坂 口 主 税	〃 31. 3. 16	〃 38. 1. 4
7	高 橋 守 雄	〃 11. 1. 19	〃 14. 7. 13	19・20	石 坂 繁	〃 38. 2. 15	〃 45. 11. 26
8	辛 島 知 己	〃 14. 9. 14	昭和 4. 7. 4	21~24	星 子 敏 雄	〃 45. 12. 20	〃 61. 12. 6
9	山 田 珠 一	昭和 5. 2. 5	〃 9. 4. 17	25・26	田 尻 靖 幹	〃 61. 12. 7	平成 6. 12. 6
10	山 隈 康	〃 9. 5. 14	〃 17. 5. 13	現市長	三 角 保 之	平成 6. 12. 7	在 任 中

左から御厨一熊助役、三角保之市長、中村順行助役、岩本洋一収入役



■熊本市行政機構図(平成8年4月1日)



市議会は、市民から選ばれた議員52名で構成されています。会派としては、自由民主党熊本市議団(15名)、平成クラブ(11名)、新風自由民主(8名)、公明(7名)、社会民主クラブ(7名)、日本共産党(2名)、無所属(1名)、自由クラブ(1名)の8会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と議会運営委員会及び特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の6委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳

情などの審査を行います。議会運営委員会は議会の運営に関する調査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、交通対策・



荒木哲美 議長



宮原正一 副議長

スポーツ振興対策の各特別委員会があります。

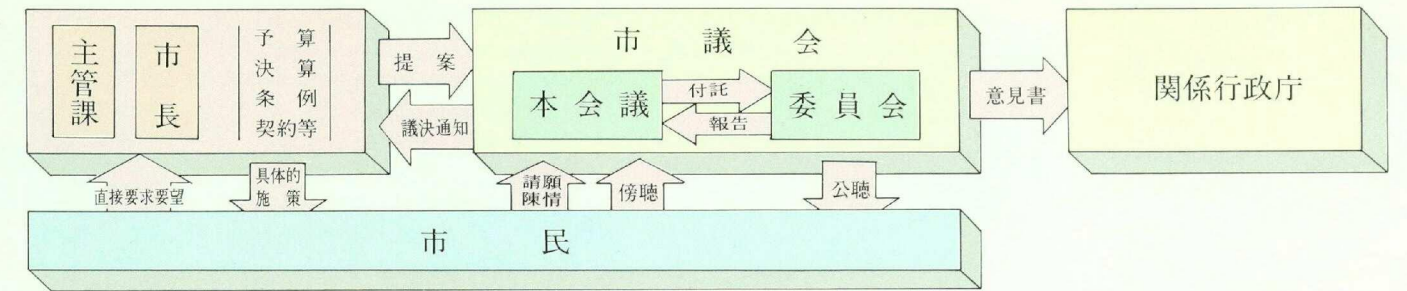
■歴代市議会議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	14	大塚勇次郎	昭和23. 6. 5	昭和26. 4. 29	27	紫垣正良	昭和50. 5. 16	昭和52. 6. 4
2	興津景章	〃 24. 1. 22	〃 28. 5. 13	15	大塚勇次郎	〃 26. 5. 15	〃 30. 4. 30	28	上田堅太	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
3	河原惟親	〃 28. 5. 14	〃 31. 5. 22	16	兼坂安次	〃 30. 5. 21	〃 34. 4. 8	29	島永慶孝	〃 54. 5. 14	〃 56. 12. 8
4	吉永為己	〃 31. 5. 23	〃 36. 2. 5	17	打出信行	〃 34. 6. 12	〃 36. 3. 24	30	藤山増美	〃 56. 12. 8	〃 58. 4. 30
5	山田珠一	〃 36. 2. 6	〃 37. 4. 30	18	寸坂幸夫	〃 36. 3. 24	〃 38. 4. 30	31	宮原光男	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
6	吉永為己	〃 37. 5. 27	大正2. 4. 30	19	阿部次郎	〃 38. 5. 18	〃 40. 3. 18	32	大石文吉	〃 60. 9. 6	〃 61. 12. 15
7	林千八	大正2. 5. 10	〃 6. 4. 30	20	井上常八	〃 40. 3. 18	〃 40. 12. 7	33	内田幸吉	〃 61. 12. 15	〃 62. 4. 3
8	山隈康	〃 6. 5. 15	〃 10. 9. 30	21	石井辰雄	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30	34	西村建治	〃 62. 5. 22	〃 63. 12. 16
9	迫源次郎	〃 10. 10. 14	〃 14. 9. 30	22	阿部次郎	〃 42. 5. 20	〃 43. 7. 3	35	村上春生	〃 63. 12. 16	平成2. 3. 26
10	山隈康	〃 14. 10. 12	昭和9. 5. 7	23	坂梨日露	〃 43. 7. 13	〃 45. 12. 4	36	矢野昭三	平成2. 3. 26	〃 3. 4. 30
11	平野龍起	昭和9. 5. 8	〃 17. 6. 14	24	黒田弥一郎	〃 45. 12. 4	〃 46. 4. 30	37	嶋田幾雄	〃 3. 5. 17	〃 5. 12. 3
12	佐藤真佐男	〃 17. 7. 23	〃 22. 4. 29	25	落水清	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6	38	中村徳生	〃 5. 12. 3	〃 7. 4. 30
13	佐藤真佐男	〃 22. 6. 9	〃 23. 4. 7	26	古川国雄	〃 48. 6. 6	〃 50. 4. 30	39	荒木哲美	在任中	

■歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	17	橋本寿七	昭和9. 5. 8	昭和17. 5. 20	33	荒木昇美	昭和48. 6. 6	昭和50. 4. 30
2	下田耕造	〃 24. 1. 22	〃 31. 5. 22	18	西郷一恵	〃 17. 6. 11	〃 22. 4. 29	34	藤山増美	〃 50. 5. 16	〃 52. 6. 4
3	片山基十郎	〃 31. 5. 23	〃 32. 2. 7	19	大塚勇次郎	〃 22. 6. 9	〃 23. 6. 5	35	矢野昭三	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
4	林定男	〃 32. 2. 8	〃 36. 2. 5	20	加川恒次	〃 23. 6. 5	〃 26. 4. 29	36	上妻重蔵	〃 54. 5. 14	〃 56. 12. 8
5	出田彦太郎	〃 36. 2. 6	〃 36. 2. 11	21	北利民	〃 25. 5. 15	〃 28. 9. 5	37	田尻武男	〃 56. 12. 8	〃 58. 4. 30
6	園部交雅	〃 36. 2. 12	〃 36. 5. 11	22	上野勉	〃 28. 9. 25	〃 30. 4. 30	38	白石正	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
7	板垣正軌	〃 36. 5. 12	〃 37. 2. 12	23	森光吉	〃 30. 5. 21	〃 32. 12. 28	39	北口政義	〃 60. 9. 6	〃 61. 12. 15
8	有働格四郎	〃 37. 2. 13	〃 40. 11. 4	24	吉村貞次	〃 34. 6. 12	〃 35. 3. 21	40	吉村潔	〃 61. 12. 15	〃 62. 4. 30
9	板垣正軌	〃 40. 11. 14	〃 42. 1. 27	25	坂梨日露	〃 35. 3. 21	〃 37. 7. 9	41	竹本勇	〃 62. 5. 22	〃 63. 12. 16
10	河田巖	〃 42. 1. 28	大正2. 4. 30	26	吉村貞次	〃 37. 7. 9	〃 38. 4. 30	42	村上裕人	〃 63. 12. 16	平〃 2. 3. 26
11	井場熊喜	大正2. 5. 10	〃 6. 4. 30	27	石井辰雄	〃 38. 5. 18	〃 41. 7. 4	43	佐藤公平	平成2. 3. 26	〃 3. 4. 30
12	峡謙斎	〃 6. 5. 15	〃 7. 3. 10	28	吉村貞次	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30	44	西田統治	〃 3. 5. 17	〃 5. 12. 3
13	藤野乱	〃 7. 3. 11	〃 10. 9. 30	29	佐藤寿子	〃 42. 5. 20	〃 44. 3. 25	45	伊形寛治	〃 5. 12. 3	〃 7. 4. 30
14	水上誠規	〃 10. 10. 14	〃 14. 9. 30	30	古川国雄	〃 44. 3. 25	〃 44. 6. 28	46	宮原正一	〃 7. 5. 19	在任中
15	河田巖	〃 14. 10. 12	昭和4. 9. 30	31	岩尾恵	〃 44. 9. 13	〃 46. 4. 30				
16	平野龍起	昭和4. 10. 12	〃 9. 5. 7	32	阪本富	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6				

■市議会のしくみ



■市議会議員 (平成8年4月1日現在)

氏名	会派	氏名	会派
荒木哲美	自民	益田牧子	共産
宮原正一	平成	大江政久	社民
坂田誠二	自民	東祇代	社民
藤山英美	平成	磯道文徳	公明
田中誠一	平成	江藤正行	自民
内田三千夫	平成	主海偉佐雄	自民
重松孝文	共産	伊形寛治	自民
小山久子	社民	奥田光弘	平成
中松健児	社民	鈴木昌彦	平成
鈴木弘	公明	諸熊文雄	新自
古川泰三	自民	上村恵一	社民
税所史昭	自民	西泰史	公明
山内光昭	平成	亀井省治	公明
下川寛	平成	中沢誠公	公明
馬場成志	新自	中村徳生	自民
竹原孝昭	新自	嶋田幾雄	自民
北口和皇	自民	竹本勇	自民
佐々木俊和	社民	田尻武男	自民
田辺正信	社民	白石正	自民
島田俊六	公明	矢野昭三	自民
河村寅麿	自民	島永慶孝	自民
田尻将博	平成	村山義雄	無所属
田尻清輝	平成	西村建治	平成
牛嶋弘	新自	大石文夫	新自
岡田健士	新自	紫垣正良	新自
落水清弘	新自	西野法久	公明

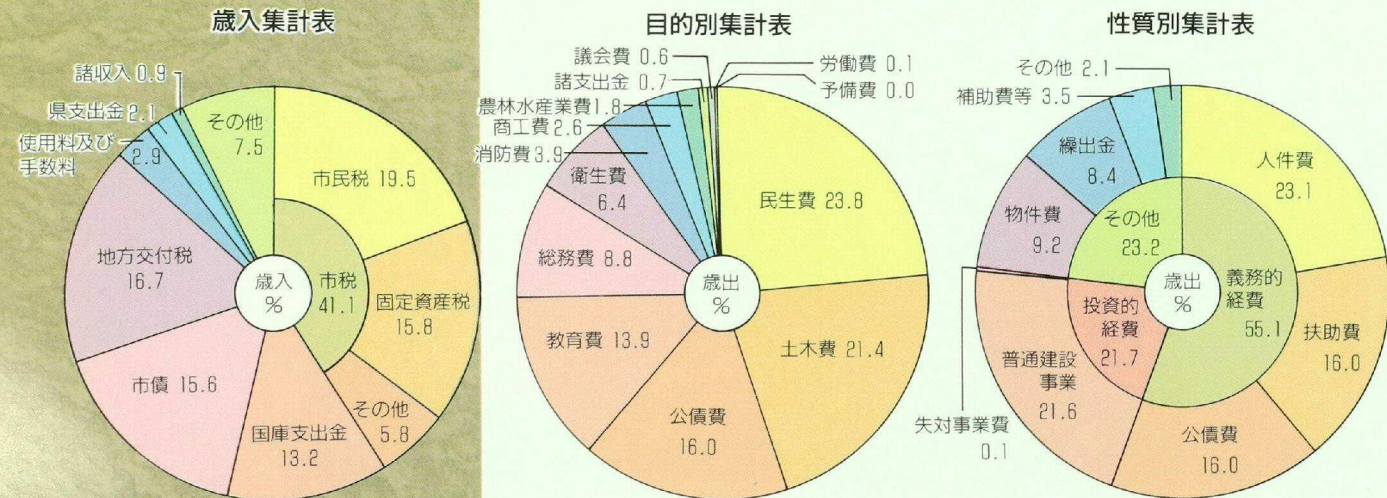
■常任・特別委員会 (平成8年4月1日現在)

名称	定数	所管事項
総務委員会	9	市長室、企画調整局、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、人事委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	9	市民生活局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	8	保健衛生局、環境保全局の所管に属する事項
経済委員会	9	経済振興局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市整備局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	8	水道局、交通局の所管に属する事項
議会運営委員会	13	議会運営に関する調査
特別委員会		
交通対策特別委員会	14	九州新幹線整備並びに鉄道高架化に関する調査
スポーツ振興対策特別委員会	14	国民体育大会およびハンドボール世界選手権大会の推進並びに競技力向上対策に関する調査



議場

■平成8年度一般会計当初予算



今日の我が国の社会経済情勢は、長期にわたり低迷していた景気にも、ようやく回復の兆しが見えはじめているものの、一方では、雇用情勢の悪化や個人消費の伸び悩み等の懸念材料もあり、その先行きには予断を許さない状況が続いています。

このような中編成されました本市の平成8年度当初予算であります。本年4月1日からの中核市移行も踏まえ、本市が名実ともに中核市にふさわしい都市となり、また、全ての市民が幸せであると感じられる都市の実現を基本理念とし、厳しい財政状況にあります。創意と工夫により、限られた財源を有効に活用し編成したところです。

この当初予算編成にあたって特に留意した点は以下のとおりです。

その第1は、健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」です。

健康は、人の幸せの基本であり、この意味で、市民ひとりひとりが心身ともに充実感にあふれ、生活環境や都市環境自体が安全で健康であるというまちづくりに取り組みます。

このため、災害に強い安全なまちづくりを目指して、防災対策の核となる総合防災公園基礎調査や、総合防災計画の見直しの一環としての耐震対策基礎調査に取り組むなど、防災対策の充実を図るとともに、保健衛生、環境保全対策として、福祉部門との連携の強化を図りつつ、市民

の保健予防に対する意識啓発等に取り組むとともに、昨年9月の環境保全都市宣言に基づく環境にやさしい街づくりを積極的に展開することとしています。

第2は、豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」です。

温かいふれあいのある人情味あふれる家庭や地域、そして、いじめのない明るい学校や職場など、人間性豊かなまちづくりに取り組むとともに、国内外にわたる都市交流についても適切な対応を図ります。

ふれあいのあるコミュニティづくりや21世紀を担う人づくりを進めるとともに、福祉施設の一層の充実、都市交流の推進を図ることとし、具体的には、地域に根ざした活動の活性化につながるまちづくり機運の醸成や、心豊かな学校生活確立推進事業の拡充、心身障害児総合通園センターの基本計画策定、さらには、ドイツ・ハイデルベルク市の800年祭における「熊本展」の開催等に積極的に取り組みます。

第3は、仕事や活動をととして「生きがいを感じるまちづくり」です。

都市基盤の整備による都市の活性化や産業経済の振興によって雇用が拡大され、それぞれがやりがいのある仕事や活動の場を持てる、生涯現役のまちづくりを目指します。

都市基盤の整備として、道路、公園、上下水道等の社会資本の整備や

パークアンドライドシステムの試行、都市の将来を見据えた都市圏交通問題の調査等に取り組むとともに、産業経済振興の対策として、農業基盤や漁港の整備推進を図るほか、食品工業団地建設推進の一環として、(仮称)熊本市食品交流会館の建設に着手します。

第4は、美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」です。

恵まれた自然環境と、歴史文化の香りのもとで育まれる豊かな感性、情操は、人間らしさの基本条件として重要であるのみならず、創造力あふれる多彩な市民活動の展開、ひいては、都市の個性の発露につながります。

このため、自然環境の保全はもとより、歴史都市の継承としての熊本城復元整備計画の策定や、「96くまもと漱石博」及び「第9回熊本県民文化祭」を開催するとともに、市民文化の振興と都市の活性化につながる「第1回お城まつり」や、子どもたちの環境教育にもつながる「世界蝶類展」の開催に積極的に取り組みます。

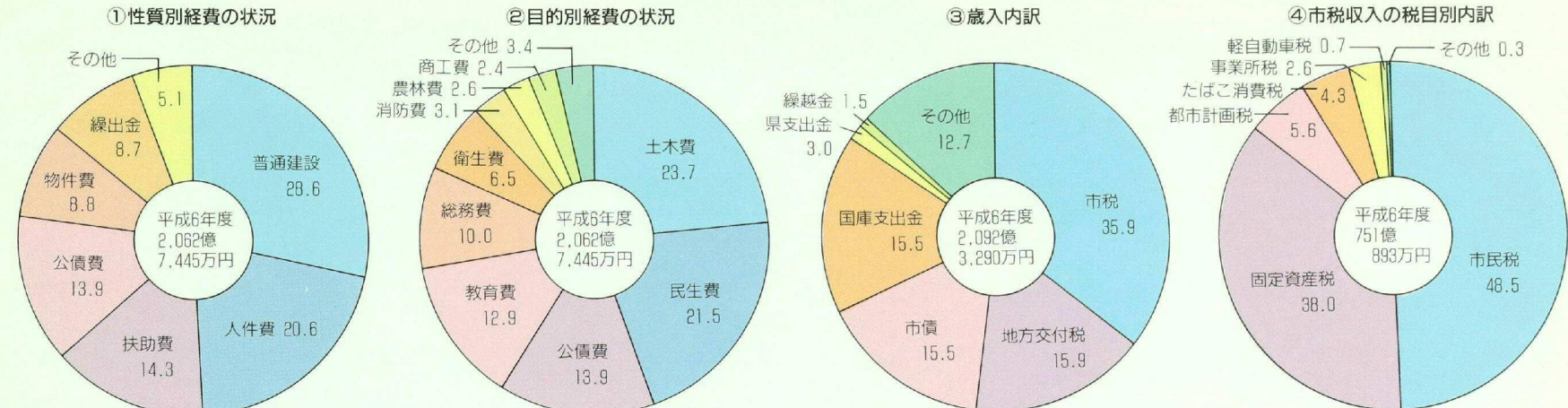
このほか、平成9年開催予定の男子ハンドボール選手権大会や、平成11年開催予定の国民体育大会に向けての対応、そして、新熊本市の一体的発展のため、総合支所管内の諸事業についても積極的に取り組むこととしています。

この結果、本市の当初予算は、一般会計191,100,000千円(対前年度6,400,000千円3.5%増)特別会計162,150,000千円(対前年度△25,250,000千円13.5%減)企業会計40,620,000千円(対前年度620,000千円1.6%増)総計393,870,000千円(対前年度△18,230,000千円4.4%減)となりました。

一般会計において、歳入面では、自主財源と依存財源の構成比でみると自主財源が48.5%(前年度48.5%)となっており、うち市税が歳入総額の41.1%(前年度40.8%)を占めています。また歳出面では、民生費(23.8%)、土木費(21.4%)、教育費(13.9%)と市民生活に密着した分野で予算の半分以上を占めています。

このように本年度予算は、厳しい財政状況にありながらも、市民生活の充実と市政の一層の発展を期すべく編成したところです。

■平成6年度決算(一般会計)の状況



平成8年度当初予算 主要事業 (単位: 千円)

1. 健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」(防災、保健衛生、環境保全関係等)	
総合防災公園基礎調査経費	7,000
防災対策経費(耐震対策基礎調査等)	51,500
防火・準防火地域見直し経費	8,000
消防司令管制システム整備事業	1,462,475
耐震性貯水槽整備事業	60,000
自主防災クラブ育成経費	1,500
救急ボランティア育成経費	700
福祉施設周辺道路交通安全対策整備事業	50,000
橋梁耐震補強経費	100,000
治水総合計画策定経費	63,000
都市小河川整備事業	1,830,000
排水路整備事業	1,214,500
浸水解消対策事業	176,000
エイズ対策事業	10,000
骨粗しょう症対策事業	5,000
災害医療対策事業	1,500
(企)市民病院医療機器整備事業	543,500
(仮称)リサイクル文化センター整備事業	322,500
環境保全都市宣言関連経費	15,000
香りの森調査経費	2,000
水資源対策経費	115,811
小型合併処理浄化槽設置費助成	100,000
緑化推進事業	320,000
熊本市斎場建設事業	176,000
墓園整備事業(桃尾、城山)	10,500
中学校区さわやか推進事業	7,400
地域ふれあい活動推進事業	3,000
心豊かな学校生活確立推進事業	27,100
いじめ110番関係経費	6,000
スクールカウンセラー派遣経費	4,500
義務教育施設等大規模改造事業	666,000
義務教育施設整備事業	2,088,192
(仮称)中央在宅福祉センター建設事業	158,400
心身障害児総合通園センター基本計画策定経費	6,000
24時間巡回介護型ホームヘルプサービス事業	4,500
無料バス券移行準備経費	1,000
地域福祉コミュニティセンター建設事業	244,000
高齢者・障害者にやさしいまちづくり推進事業	100,000
在宅老人デイサービス事業	421,347
重度身体障害者介護人派遣事業	16,146
身体障害者自立支援事業	8,034
(ハイデルベルク市800年祭関連)	
(仮称)ハイデルベルク「熊本展」開催経費	22,500
市民友好の翼派遣経費	10,000
少年スポーツ国際交流経費	16,000
熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業	17,000
(青少年訪問派遣、音楽交流会派遣)	
インターネットを活用した都市情報発信事業	15,000
3. 仕事や活動をととして「生きがいを感じるまちづくり」(都市基盤整備、産業経済振興等)	
道路関係整備事業(舗装打換、道路橋梁新設改良、街路等)	7,553,700
公園整備事業	1,519,485
(企)水道第5次拡張事業	3,422,493
(特)公共下水道築造事業	14,600,000
公営住宅建設事業	9,000,251
国体ブール建設事業	5,600,000
都市計画マスタープラン策定調査経費	16,000
パークアンドライドシステム試行実施事業	29,000
熊本市都市圏交通問題研究調査事業	15,000
2. 豊かな人間関係のある「心のかようまちづくり」(地域づくり、人材育成、福祉、都市交流等)	
まちづくり委員会開設助成	3,000
コミュニティ放送による広報経費	24,000
コミュニティカルテ策定事業	8,000
4. 美しいものに感動できる豊かな感性を育むまちづくり(自然環境保全、歴史文化継承等)	
熊本城復元整備計画策定経費	8,000
「96くまもと漱石博」開催経費	55,000
第9回熊本県民文化祭開催経費	30,000
お城まつり開催経費	80,000
世界蝶類展開催経費	55,000
漱石来熊100周年記念市民会館自主文化事業	12,000
道路環境整備事業	704,000
くらしのみちづくり事業	50,000
夏目漱石内坪井旧居整備事業	26,000
5. その他	
中核市移行関係経費	845,731
第54回国民体育大会熊本市準備委員会経費	30,000
競技力向上対策経費	46,600
1997年男子世界ハンドボール選手権大会関係経費	182,747
高度情報化計画策定経費	7,000
行政改革大綱策定経費	1,000

本市は市民と行政が意思の疎通を積極的に図る双方向の対話を基軸として、人情味豊かな思いやりあふれる「新しい熊本づくり」を進めています。

このため、広報広聴活動の原点である対話とコミュニケーションを通して市民と行政相互の信頼関係を築き、共通の認識をもって都市づくりができるような土壌づくりに全力で取り組んでいます。

〈広報活動〉

市政だよりなどの刊行物による広報

毎月1日に発行している市政だよりのほか、弱視者や目の不自由な方などのための拡大版、点字、声の市政だよりを発行しています。また、市の施策方針を紹介した「しあわせ実感くまもとまちがたり」やその具体的施策を紹介する「ひびき」を発

行しています。

テレビ、ラジオによる広報

市の施策、行事、施設にかかわるタイムリーな話題などを広報番組としてテレビ・ラジオで放送しています。メディアの特性を生かしながら各局それぞれに特徴をもたせて制作しています。

新聞、雑誌などによる広報

市政の動きや生活に密着した情報などを新聞紙面や雑誌、タウン誌などに掲載しています。

報道対応

報道でも市政情報がより多く取り上げられるように市政記者会見、局長懇談会、部・課長レクチャー、資料提供などを行っています。

〈広聴活動〉

街づくりに関することなど市民のいろいろな意見や要望が市民交流サロンに提案され、市政に反映されています。

市政懇談会

市長が地域に出向き、地域の各層や各種団体との意見交換を行います。

出前市民交流サロン

市民交流サロンの職員が地域に出向き、身近な問題や市政全般について懇談を行います。

サロンdeトーク

市民と市が対話を通して意思の疎通を図り、よりよい市政を実現するため、市長をはじめ市の幹部職員が、市民交流サロンで、市民との懇談を行います。

市長への手紙・サロン通信(FAX)

市政への提言や要望、将来像などを手紙やFAXで提出していただきます。

市政に関する意識調査

市民の市政に対する評価や要望などを定期的に調査する項目とその時々的重要な施策について調査する項目をアンケートにより調査します。



市政番組の収録

市政モニター

市内全79小学校区に計100名の市政モニターを委嘱し、市政に関するいろいろな意見を地域別、年代別など組織的に聴いています。

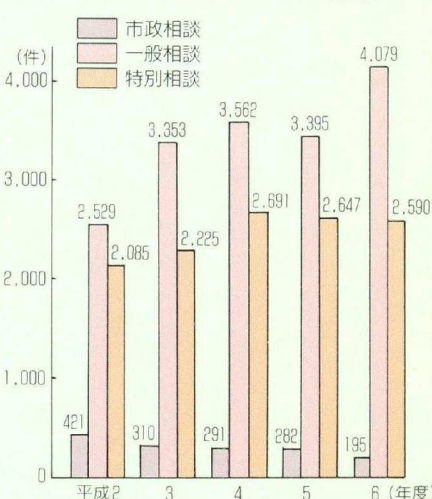
市民相談

市民のさまざまな相談に迅速に対応、処理しています。

平成7年度は、市政に関する相談が急増しています。

また、弁護士、税理士などの専門相談員による特別相談も行っています。

■「市民の声」受付件数の推移



市民の暮らし

平成7年

世帯人口 1世帯当り2.6人	人口密度 1kmに2,443人		出生 1日につき19.2人	死亡 1日につき10.9人
結 婚 1日につき12.3組	離 婚 1日につき3.4組	転 入 1日につき98.0人	転 出 1日につき95.1人	酒 1人1日0.13リットル
乗用自動車(軽自動車を含む) 1世帯に0.9台	犯 罪 1日に32.3件	交通事故 1日に12.6件	市職員 市民95.2人に1人	消防職員 市民1,020人に1人
火 災 1日に0.59件	水道使用料 1日1人あたり263L	ごみ収集量 1日に831トン	市税 市民1人当り117,205円	市の予算 市民1人当り288,218円

(人口関係は平成7年分、予算は平成7年度当初予算額、その他は平成6年又は6年度分の数値である)



サロン de トーク